

健康社会医学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	2人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	1人
大学院学生(うち他講座から)	8人 (0人)
研究生	4人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	13人
合 計	30人

1-2 教員の異動状況

尾島 俊之、教授、平成18年4月1日～現職
中村美詠子、准教授、平成24年4月1日～現職
柴田 陽介、助教、平成 26年4月1日～現職
岡田 栄作、助教、平成 26年4月1日～現職

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	JAGES(日本老年学的評価研究)プロジェクト、認知症にやさしい地域に関する研究
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究は主として、健康格差、介護予防、ソーシャルキャピタルなどについて解明し、施策づくりに貢献することを目的としている。1999年に愛知県の2自治体で始まり、2016年には北海道から九州までの約40自治体の20万人規模の大規模コホートとなり、長期追跡を継続している。また、JAGES プロジェクトと一体的に、認知症にやさしい地域に関する研究を行っている。公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。千葉大学、東京大学、東北大学、日本福祉大学、国立長寿医療研究センター、WHO、米国ハーバード大学、英国ロンドン大学等との共同である。
	(3) 前年度までの状況	長期のコホート研究などによって、健康格差の状況、社会参加の介護予防や認知症予防等への効果を始めとした知見をだし、発表を行っている。
	(4) 当該年度内の進捗	自治体との共同により20万人規模の大規模調査を行った。また、厚生労働科学研究「認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-FriendlyCitiesの創生に関する研究」が採択となり、開始された。
	(5) 翌年度の方針と予想	当面は2016年度調査データ及び長期追跡データの分析を行うと共に、自治体と共同で施策づくりを進めていく予定である。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	NIPPON DATA 研究(社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究)
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	厚生労働省による循環器疾患基礎調査(1980年、1990年)、また国民健康・栄養調査(2010年)という日本国民の代表集団をベースラインとした大規模コホート研究である。当講座では、NIPPON DATA 2010の社会的要因分析、脂質異常症に影響する要因の変化などを担当している。滋賀医科大学、国立健康・栄養研究所等との共同研究である。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	大規模災害に関する研究
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	厚生労働科学研究と、中部電力等との共同研究の2つの研究として行っている。厚生労働科学研究では、広域大規模災害時における地域保健活動支援・受援管理体制について、災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)を構築することが目的である。山梨県中北保健福祉事務所、岡山大学、東北大学、国立保健医療科学院、国立病院機構災害医療センター等との共同研究である。中部電力等との共同研究については、静岡県立大学を含めた産学学共同研究として実施している。
4	(1) 研究・開発等のテーマ名	健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	厚生労働省による国民健康・栄養調査の実施方法の改善の検討を行うこと、また国民・健康栄養調査データの活用手法を開発することが目的である。国民健康・栄養調査への採尿導入の検討として、健康診査の随時尿を用いた食塩摂取量の推計についてその実用性を検証した。また、国民・健康栄養調査データを用いた都道府県別解析として、脳血管疾患、平均寿命、健康寿命に関する地域相関研究を実施した。国立健康・栄養研究所、北海道大学、国立保健医療科学院等との共同研究である。
5	(1) 研究・開発等のテーマ名	健やか親子21に関する研究
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	健やか親子21(第2次)の課題である母子保健領域における格差の是正および母子保健情報の利活用の推進のために、乳幼児健康診査を中心とした市町村事業のデータの利活用システムの構築と母子保健情報利活用のガイドラインを作成することを目的としている。母子保健の向上に資するように、母子保健に関する現場のデータの分析等を進めている。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	20編 (6編)
そのインパクトファクターの合計	31.851
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	17編
そのインパクトファクターの合計	3.208
(3) 総説数(うち和文のもの)	2編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4) 著書数(うち和文のもの)	9編 (9編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Nakamura M, Ojima T, Nakade M, Ohtsuka R, Yamamoto T, Suzuki K, Kondo K: Poor oral health and diet in relation to weight loss, stable underweight, and obesity in community-dwelling older adults: A cross-sectional study from the JAGES 2010 Project, Journal of Epidemiology, 26(6), 322-329, 2016.	2.546
2.	Nakamura M, Sugiura M, Ogawa K, Ikoma Y, Yano M: Serum β -cryptoxanthin and β -carotene derived from Satsuma mandarin and brachial-ankle pulse wave velocity: The Mikkabi cohort study, Nutrition, Metabolism and Cardiovascular Diseases, 26(9), 808-814, 2016.	3.390
3.	Nakamura M, Sugiura M, Shibata Y, Ojima T: Effect of β -cryptoxanthin-rich Satsuma mandarin juice supplementation on pulse wave velocity: a randomized controlled trial, Journal of Nutrition & Intermediary Metabolism, 8,8-13, 2017.	0.000
4.	Ozeki K, Furuta T, Asano M, Noda T, Nakamura M, Shibata Y, Okada E, Ojima T: Association of hay fever with the failure of Helicobacter pylori primary eradication, Internal Medicine, 55(13), 1729-1734, 2016.	0.832
5.	Myojin T, Ojima T, Kikuchi K, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Hashimoto S: Orthopedic, ophthalmic, and psychiatric diseases primarily affect activity limitation for Japanese males and females: Based on the Comprehensive Survey of Living Conditions, Journal of Epidemiology, 27(2), 75-79, 2017.	2.546
6.	Havashi H, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Ojima T: The influence of speech-language-hearing therapy duration on the degree of improvement in poststroke language impairment, Rehabilitation Research and Practice, 7459483, 2017.	0.000
7.	中村美詠子, 長幡友実, 篠原啓子, 尾島俊之: 都道府県別食塩・野菜摂取量と循環器疾患死亡に関する生態学的研究, 東海公衆衛生雑誌, 4(1), 65-68, 2016.	0.000
8.	佐藤佑太, 柴田陽介, 岡田栄作, 中村美詠子, 尾島俊之: 地域住民における食べる速度と体型との関連, 東海公衆衛生雑誌, 4(1), 120-123, 2016.	0.000

論文数(A)小計 8 うち和文 2 IF小計 9.314

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Mizuta A, Suzuki K, Yamagata Z, Ojima T: Teachers' support and depression among Japanese adolescents: a multilevel analysis. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 52(2), 211-219, 2017.	2.513
2.	Mizuta A, Fujiwara T, Ojima T: Association between economic status and BMI among adolescents: A community-based cross-sectional study in Japan. BMC Obesity, 2016 Nov 10;3:47.	0.000
3.	安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子: 月経周期と生活行動要因・精神的要因との関連, 静岡県母性衛生学会誌, 6(1), 11-14, 2016.	0.000
4.	水田明子, 岡田栄作, 尾島俊之: 日本の中学生のいじめの加害経験に関連する要因—クラスレベルと個人レベルでの検討—, 日本公衆衛生看護学会誌, 5(2), 136-143, 2016.	0.000

論文数(B)小計 4 うち和文 2 IF小計 2.513

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Nguyen HN, Miyagawa N, Miura K, Okuda N, Yoshita K, Arai Y, Nakagawa H, Sakata K, Ojima T, Kadota A, Takashima N, Fujiyoshi A, Ohkubo T, Abbott RD, Okamura T, Okayama A, Ueshima H; NIPPON DATA80 Research Group. Dietary tofu intake and long-term risk of death from stroke in a general population. Clinical Nutrition. 2016 Dec 3. pii: S0261-5614(16)31337-1	4.487
2.	Inoue Y, Stickley A, Yazawa A, Shirai K, Amemiya A, Kondo N, Kondo K, Ojima T, Hanazato M, Suzuki N, Fujiwara T: Neighborhood Characteristics and Cardiovascular Risk among Older People in Japan: Findings from the JAGES Project. PLoS One. 2016 Oct 7;11(10):e0164525.	3.057
3.	Berger N, Robine JM, Ojima T, Madans J, Van Oyen H. Harmonising summary measures of population health using global survey instruments. J Epidemiol Community Health, 70(10), 1039-1044, 2016.	3.865

4.	Koyama S, Aida J, Saito M, Kondo N, Sato Y, Matsuyama Y, Tani Y, Sasaki Y, Kondo K, <u>Ojima T</u> , Yamamoto T, Tsuboya T, Osaka K. Community social capital and tooth loss in Japanese older people: a longitudinal cohort study. <i>BMJ Open</i> . 2016. Apr 5;6(4):e010768.	2.562
5.	Sugiura M, <u>Nakamura M</u> , Ogawa K, Ikoma Y, Yano M: High Vitamin C Intake with High Serum β -Cryptoxanthin Associated with Lower Risk for Osteoporosis in Post-Menopausal Japanese Female Subjects: Mikkabi Cohort Study, <i>Journal of Nutritional Science and Vitaminology</i> , 62(3), 185-191, 2016.	0.890
6.	Ebata S, Takahashi J, Hasegawa T, Mukaiyama K, Isogai Y, Ohba T, <u>Shibata Y</u> , <u>Ojima T</u> , Yamagata Z, Matsuyama Y, Haro H: Role of Weekly Teriparatide Administration in Osseous Union Enhancement within Six Months After Posterior or Transforaminal Lumbar Interbody Fusion for Osteoporosis-Associated Lumbar Degenerative Disorders: A Multicenter, Prospective Randomized Study, <i>The Journal of Bone and Joint Surgery</i> , 99(5), 365-372, 2017.	5.163
7.	上原 里程, 篠原 亮次, 秋山 有佳, 市川 香織, 尾島 俊之, 玉腰 浩司, 松浦 賢長, 山崎 嘉久, 山縣 然太朗, 市町村における「健やか親子21」に関する母子保健統計情報の利活用の現状と課題 都道府県による集計分析および課題抽出の支援を受けた市町村の観察, <i>日本公衆衛生雑誌</i> 63巻7号 Page376-384, 2016.	0.000
8.	上木 隆人, 永見 宏行, 山田 圭子, 角園 真枝, 鈴木 晶子, 森永 裕美子, 中板 育美, 尾島 俊之, 平野 かよ子, 65歳平均自立期間A、B及びその差を用いた全国11区域の健康寿命の実態と評価, <i>社会医学研究</i> , 34巻1号 Page1-10, 2017.	0.000

論文数(C)小計 8 うち和文 2 IF小計 20.024

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Shibata Y</u> , Nakamura H, Nakamura M, <u>Ojima T</u> : Descriptive Study of the Chief Complaints of Community-dwelling Elderly Patients at an Acupuncture Clinic, <i>WFAS2016</i> , 419, 2016.	0.000
2.	尾島 俊之, 堀井 聡子, 近藤 尚己, 尾関 佳代子: 熊本地震における保健医療福祉の課題と連携, <i>東海公衆衛生雑誌</i> , 4(1), 53, 2016.	0.000
3.	尾島俊之, 竹田徳則, 宮國康弘, 相田潤, 横山由香里, 村田千代栄, 鄭丞媛, 中村廣隆, 岡田栄作, 中村美詠子, 斉藤雅茂, 近藤尚己, 近藤克則: 認知症要介護認定に関連する環境要因 JAGESプロジェクト, <i>日本循環器病予防学会誌</i> , 51(2), 132, 2016.	0.000
4.	尾島 俊之, 岡田 栄作, 中村 美詠子, 堀井 聡子, 横山 由香里, 相田 潤, 近藤 克則: 認知症を含む高齢者にやさしい地域指標としての高齢者の交通事故死亡, 第75回日本公衆衛生学会総会抄録集, 271, 2016.	0.000
5.	尾島俊之, 原岡智子, 吉野篤人, 田上豊資, 金谷泰宏, 中瀬克己, 古屋好美: 熊本地震の亜急性期における福祉避難所ニーズの推計. 第22回日本集団災害医学会総会・学術集会, <i>Japanese Journal of Disaster Medicine</i> , 21(3), 563, 2017.	0.000
6.	尾島俊之, 倉田貞美, 加賀田聡子, 堀井聡子, 横山由香里, 相田潤, 斉藤雅茂, 近藤尚己, 近藤克則: Age and Dementia Friendly Cities 指標の開発と地域格差診断, <i>Journal of Epidemiology</i> , 27(suppl 1), 84, 2017.	0.000
7.	柴田陽介, 仲村秀子, 岡田栄作, 中村美詠子, 尾島俊之: 地域在住高齢者の就業と健康状態の関連, <i>日本公衆衛生学会総会抄録集</i> , 75, 524, 2016.	0.000
8.	柴田陽介: 地域在住高齢者における症状別の接骨院受診選択に関する記述疫学研究, <i>日本柔道整復接骨医学学会学術大会プログラム・抄録集</i> , 25, 88, 2016.	0.000
9.	柴田陽介, 中村美詠子, 尾島俊之: 地域在住高齢者における接骨院, 鍼灸院, カイロプラクティック・整体・マッサージの利用状況と関連する要因, 第27回日本疫学会学術総会講演集, 27, 146, 2016.	0.000
10.	尾関佳代子, 尾島俊之, 中村美詠子, 柴田陽介, 西信雄, 奥田奈賀子, 門田文, 佐藤敦, 宮川尚子, 近藤慶子, 大久保孝義, 上島弘嗣, 岡村智教, 岡山明, 三浦克之, ND2010研究グループ: 男性の婚姻状況・年齢と高尿酸血症の関連, 第27回日本疫学会学術総会講演集, 27, 124, 2016.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 10 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Yasuda T, <u>Ojima T</u> , Nakamura M, <u>Shibata Y</u> : Relationship between maternal depressed mood and mothers' feelings for their children using Attachment-Caregiving Balance Scale among Japanese women who raise their 18-month-old children, 18th ISAPA Congress, 2016.	0.000
2.	安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子, 柴田陽介: 子育てをしている母親の就労とおしゃれ意識との関連, <i>静岡県母性衛生学会誌</i> , 6(1), 60, 2016.	0.000
3.	水田明子, 柴田陽介, 岡田栄作, 中村美詠子, 尾島俊之: 中学生の喫煙に関連する父母の喫煙, 第27回日本疫学会学術総会講演集, 27, 133, 2016.	0.000
4.	長谷川智彦, 波呂浩孝, 江幡重人, 高橋淳, 向山啓二郎, 尾島俊之, 柴田陽介, 大和雄, 小林祥, 坂野友啓, 松山幸弘: 椎体間固定術における骨癒合評価の信頼性はあるのか?, <i>Journal of Spine Research</i> , 7(3), 551, 2016.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 4 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Fukukawa Y, Onoguchi W, Nakamura M: A Japanese version of the measure of food choice values: validity and reliability assessment, International Psychological Applications Conference and Trends 2016, Lisbon, Portugal, 312-314, 2016.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 1 IF小計 0.000

(2-2)レター

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Nakamura M, Ojima T: (Commentary) A modified DASH diet is one possible solution for overcoming the unfavorable link between vegetable and salt intake in the Japanese diet, Hypertension Research, 39(11), 756-757, 2016.	3.208
2.	尾島俊之, 健康日本21(第2次)の柱である健康格差対策に悩んでいる方にお勧めの1冊: 書評 健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点(近藤尚己著), 保健師ジャーナル 73(2): 187, 2017.	0.000

レター数小計 2 IF小計 3.208

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	中村美詠子, 生活習慣、自覚症状から不登校を考える, 教育と医学, 64(9), 36-43, 2016.	0.000
2.	岡田栄作, 杉田恵子, 櫻木正彦, 尾島俊之, 近藤克則. 地域住民と作る地域診断活用支援プログラム開発の試み, 地域ケアリング, 19(2), 74-78, 2017.	0.000

総説数(A)小計 2 うち和文 2 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4)著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	柳川洋, 尾島俊之編著, 中村美詠子: 社会・環境と健康 公衆衛生学2017年版 Chapter11 医療制度, 医歯薬出版株式会社, 113-121, 2017.	
2.	尾島俊之, 予防医学におけるハイリスク戦略とポピュレーション戦略. 近藤克則編集. ケアと健康 社会・地域・病い, ミネルヴァ書房, p188-206, 2016.9.10. 発行	
3.	柳川洋, 尾島俊之編集 基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第4版. 南江堂. 2017.1.10 発行	
4.	B・F・クラブトリー, 尾島俊之. 混合研究法の研究設問とデザインを発展させるため、ストーリーを使うこと. 日本混合研究法学会監修, 抱井尚子, 成田慶一編. 混合研究法への誘い 質的・量的研究を統合する新しい実践研究アプローチ. 遠見書房. 2016.8.31発行	
5.	尾島俊之: 保健医療制度と医療資源, 日本における公衆衛生に関連する行政の流れ. 柳川洋, 中村好一編集. 公衆衛生マニュアル2016. 南山堂. 2016.4.10 発行	
6.	尾島俊之: 健康寿命の延伸, 健康格差, 他. 松谷有希雄, 兼板佳孝, 横山徹爾, 菅根智史, 山縣然太郎, 尾島俊之, 青山旬, 谷原真一, 中山健夫, 吉池信男, 小橋元, 大橋正, 西山裕, 網野茂貴, 小西由起子. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 一般財団法人厚生労働統計協会, 2016.	
7.	尾島俊之: 精神疾患. 古野純典, 辻一郎, 吉池信男編集. 社会・環境と健康 改訂第5版. 南江堂, 2017.3.30発行	
8.	柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一, 倉田貞美, 近藤今子, 巽あさみ, 千原泉, 坪井聡, 中村美詠子, 西山慶子, 原岡智子, 水田明子, 渡辺晃紀: 保健指導ノート2017 公衆衛生の現状. 日本家族計画協会, 2016.	

著書数(A)小計 8 うち和文 8

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	五十嵐脩監修, 中村美詠子: 精選栄養学 第4章エネルギー代謝と食事摂取基準第2節食事摂取基準, 第5章栄養状態の評価, 第9章食生活の展望と健康増進第1節日本人の栄養摂取, 実教出版株式会社, 65-71, 80-85, 144-146, 2016.	

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	9 件	348 万円
(2)厚生労働科学研究費	4 件	666 万円
(3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	2 件	60 万円
(4)科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5)他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6)財団助成金	0 件	0 万円
(7)受託研究または共同研究	1 件	182 万円
(8)奨学寄附金	0 件	0 万円

(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	尾島俊之(代表), 基盤研究(C), ナッジ(Nudge)を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究, 平成26年度~平成29年度	80万円
2.	中村美詠子(代表), 基盤研究(C), 食事の栄養素コスト評価とポジティブデビエンスアプローチ, 平成28年度~平成30年度	130万円
3.	岡田栄作(代表), 若手研究(B), 地域包括ケアシステム構築のための地域診断活用支援プログラムの開発, 平成26年度~平成29年度	60万円
4.	尾島俊之(分担), 基盤研究(C), 「保健活動の評価指標」の「政策統計の報告事項」への適用可能性の検討, 平成28年度~平成30年度, (研究代表者)長崎県立大学看護栄養学部教授・平野かよ	8万円
5.	尾島俊之(分担), 基盤研究(A), 高齢者における健康の社会的決定要因に関する大規模パネル調査, 平成25年度~平成29年度, (研究代表者)東京大学医学系研究科准教授・近藤尚己	10万円
6.	尾島俊之(分担), 基盤研究(B)(特設分野), 沖縄地域在住高齢者の健康長寿と社会関係資本の関係, 平成27年度~平成30年度, (研究代表者)琉球大学法文学部准教授・白井こころ	20万円
7.	中村美詠子(分担), 基盤研究(C), 音声認識食事調査のための食物センサーの開発提言—食事記録コーパスの疫学的活用, 平成27年度~平成29年度, (研究代表者)至学館健康科学部教授・今枝奈保美	10万円
8.	尾島俊之, 中村美詠子(分担), 挑戦的萌芽研究, 将来の糖尿病発症者である妊婦糖尿病妊婦を未病にするケア開発と医療費削減の効果, 平成27年度~平成29年度, (研究代表者)臨床看護学・安田孝子	20万円
9.	尾島俊之(分担), 基盤研究(C), 思春期の抑うつと乳幼児期からの家庭要因及び環境要因に関する研究, 平成27年度~平成29年度, (研究代表者)地域看護学・水田明子	10万円

(2)厚生労働科学研究費

1.	尾島俊之(代表), 認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-FriendlyCitiesの創生に関する研究, 平成28年度~平成30年度	431万円
2.	尾島俊之(分担), 社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPONDATA80/90/2010, 平成25(2013)年度~平成29年度, (研究代表者)滋賀医科大学教授・三浦克之	45万円
3.	尾島俊之(分担), 健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発, 平成27年度~平成28年度, (研究代表者)国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所所長・古野純典	150万円
4.	尾島俊之(分担), 母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究, 平成28年度~平成30年度, (研究代表者)山梨大学教授・山縣然太郎	40万円

(3) 日本医療研究開発機構 (AMED) による研究助成

1.	尾島俊之(分担), 地域づくりによる介護予防を推進するための研究, 平成27年度~平成29年度, (研究代表者) 千葉大学教授・近藤克則	30万円
2.	尾島俊之(分担), データに基づき地域づくりによる介護予防対策を推進するための研究, 平成27年度~平成28年度, (研究代表者) 東京大学准教授・近藤尚己	30万円

(7) 受託研究または共同研究

1.	(共同研究) 尾島俊之, 災害地域における情報等連携策に関する調査研究, 中部電力株式会社, 平成28年度	182万円
----	--	-------

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
3) 学会座長回数	0 件	5 件
4) 学会開催回数	0 件	6 件
5) 学会役員等回数	0 件	19 件
6) 一般演題発表数	3 件	

(1) 国際学会等開催・参加

6) 一般発表

6-1) 口頭発表

1.	Ojima T, Myojin T, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Saito Y, Hashimoto S, International Comparison of Healthy Life Expectancy of Talking with Friends. 28th REVES (Réseau espérance de vie en santé) 2016年6月8日~2016年6月10日, Vienna, Austria
2.	Ojima T, Horii S, Rosenberg M, Aida J, Yokoyama Y, Takeda T, Murata C, Saito M, Kondo N, Kondo K. Measuring the Age and Dementia Friendly Community. Prince Mahidol Award Conference Feb 1-3, 2017, Bangkok, Thailand

6-2) ポスター発表

1.	Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y, Relationship between maternal depressed mood and mothers' feelings for their children using Attachment-Caregiving Balance Scale among Japanese women who raise their 18-month-old children, 18th Conference of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynaecology, 2016.5.12-14, Malaga (Spain).
----	---

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

1.	岡田栄作, 10年後に地域をより健康にするためにはどのような対話が必要かその実践と方法, 日本ファシリテーション協会シンポジウム2016, 名古屋国際会議場, 2016年5月
2.	岡田栄作, 研究発表エントリーシートから考えるファシリテーションの実践を研究へと発展させる視点とは, 日本ファシリテーション協会シンポジウム2016, 名古屋国際会議場, 2016年5月

3) 座長をした学会名

1.	尾島俊之, 第52回日本循環器病予防学会, さいたま市, 2016年6月17~18日
2.	尾島俊之, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪市, 2016年10月26~28日
3.	中村美詠子, 第63回日本栄養改善学会学術総会, 青森市, 2016年9月8日
4.	尾島俊之, 第27回日本疫学会学術総会, 甲府市, 2017年1月27日
5.	中村美詠子, 第27回日本疫学会学術総会, 甲府市, 2017年1月27日

4) 主催した学会名

1.	尾島俊之, 大会長, 日本混合研究法学会第2回年次大会(東京都), 2016年8月27~28日, 160人
2.	尾島俊之, 学会長, 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市), 2016年11月12日, 128人
3.	中村美詠子, 学術委員長, 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市), 2016年11月12日, 128人
4.	柴田陽介, 運営委員長, 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市), 2016年11月12日, 128人
5.	岡田栄作, ソーシャル委員長, 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市), 2016年11月12日, 128人
6.	飛世由美子, 事務局長, 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市), 2016年11月12日, 128人

5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	尾島俊之、東海公衆衛生学会理事長
2.	尾島俊之、日本混合研究法学会副理事長
3.	尾島俊之、日本疫学会理事
4.	尾島俊之、日本疫学会疫学専門家養成検討委員長
5.	尾島俊之、日本循環器病予防学会理事
6.	尾島俊之、日本産業衛生学会東海地方会理事
7.	尾島俊之、日本産業衛生学会代議員
8.	尾島俊之、日本公衆衛生学会評議員
9.	尾島俊之、日本栄養改善学会評議員
10.	尾島俊之、日本多施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員(日本疫学会からの推薦)
11.	尾島俊之、日本集団災害医学会評議員
12.	尾島俊之、全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会卒前カリキュラム委員長
13.	尾島俊之、社会医学系専門医協会研修プログラム認定委員会委員
14.	中村美詠子、日本疫学会代議員
15.	中村美詠子、日本産業衛生学会代議員
16.	中村美詠子、日本栄養改善学会評議員
17.	中村美詠子、日本栄養改善学会東海支部会幹事
18.	中村美詠子、東海公衆衛生学会理事
19.	岡田栄作、日本社会医学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1 件	0 件

(1)外国の学術雑誌の編集

1. 尾島俊之 PLOS ONE (Public Library of Science, USA)、Academic Editor、Indexed for PubMed、Impact Factor 3.057

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1. 尾島俊之、2回、Geriatrics & Gerontology International
2. 尾島俊之、1回、Journal of Epidemiology
3. 中村美詠子、1回、Hypertension Research
4. 中村美詠子、1回、Environmental Health and Preventive Medicine
5. 中村美詠子、1回、Plos One
6. 中村美詠子、1回、Current Vascular Pharmacology
7. 中村美詠子、1回、Journal of Obstetrics and Gynaecology Research
8. 中村美詠子、1回、Journal of Epidemiology
9. 中村美詠子、1回、Diabetes Care

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	8 件
(3)学内共同研究	2 件

(2)国内共同研究

1. NIPPON DATA 研究、三浦克之(滋賀医科大学社会医学講座)、他
2. JAGES(日本老年学的評価研究)、地域在住高齢者の要介護・認知症発生に関わる要因に関する追跡研究、心理社会面に着目した認知症の予防的福祉に向けた縦断研究、近藤克則(千葉大学予防医学センター、国立長寿医療研究センター)、他
3. 健康日本21(第二次)の推進に関する研究、橋本修二(藤田保健衛生大学)、辻一郎(東北大学大学院)、他
4. 健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発、古野純典(国立健康・栄養研究所)、他
5. 広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究、古屋好美(山梨県中北保健福祉事務所)、中瀬克己(岡山大学大学院)、石井正(東北大学大学院)、金谷泰宏(国立保健医療科学院)、近藤久禎(国立病院機構災害医療センター)、他
6. 減塩55プログラムに係る食塩摂取量を把握するための調査票の開発と評価、赤堀摩弥他(静岡県健康福祉部健康増進課)
7. 健やか親子21に関する研究、山縣然太郎(山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座)、他

8. 食事記録コーパスに関する研究(至学館大学 今枝奈保美)

(3)学内共同研究

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術(及び多椎間脊椎インプラント手術)におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究, 整形外科学講座
 2. 妊娠糖尿病に関する研究、内科学第二講座

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	2件

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術(及び多椎間脊椎インプラント手術)におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究
 2. 災害地域における情報等連携策に関する調査研究

11 受賞

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1. 尾島俊之、「健康寿命 なぜトップ? 健康寿命1位の浜松市」、フジテレビ みんなのニュース、2016年12月21日
 2. 尾島俊之、「国保改革における都道府県・市町村保健師等への期待」、週刊保健衛生ニュース、2017年3月6日
 3. 尾島俊之、「健康寿命の現状は 尾島教授、データ紹介ー浜松医科大公開講座」、静岡新聞、2016年5月29日
 4. 尾島俊之、「[R-50プラス]アレクサンダー・テクニーク 体緩めて 心も穏やか=静岡」読売新聞、2016年7月15日
 5. 尾島俊之、「忍び寄る健康格差ー元気で長生きしたいなら静岡・山梨がいい? 健康長寿都市ランキング」、週刊東洋経済、2016年7月2日
 6. 尾島俊之、「元気で」長生き」できる都道府県はどこか? /「長寿=健康」とは限らない、これだけの理由、東京経済オンライン、2016年6月29日
 7. 尾島俊之、「健康寿命延伸へシンポ 高齢者の社会参加促すー静岡」、静岡新聞、2016年9月10日
 8. 尾島俊之、「災害時の公衆衛生 浜医大教授が解説ー18日、静岡で講座」、静岡新聞、2017年2月16日
 9. 尾島俊之(コメント)、「要介護リスク:10の質問 15分続けて歩ける? 預貯金出し入れは? 千葉大など、7万人で検証」、毎日新聞、2017年2月17日
 10. 尾島俊之(コメント)、「100歳以上6万5000人超 46年連続増 9割近く女性」、佐賀新聞、2016年9月14日
 11. 尾島俊之、「なぜ浜松は健康寿命が長いんですか?」、HAMA流 21号、2016年 Spring
 12. 尾島俊之、「ぬるめの温度でゆったり入浴が効果的。」、はままつし社協だより No163、2016年9月5日
 13. 中村美詠子、「ミカン食べるほど糖尿病リスク低減」、朝日新聞朝刊全国版、2016年4月2日
 14. 中村美詠子、「温州ミカン摂取で糖尿病リスク低減」、読売新聞朝刊静岡県内版、2016年4月4日
 15. 中村美詠子、「毎日の『みかん』で糖尿病シルクが減少! 生活習慣病の”救世主”は天然色素『カロテノイド』」、HEALTH PRESS 2016年4月7日
 16. 中村美詠子、「糖尿病も防ぐ!? ミカンの効能」、SBSイブアイ静岡、2016年4月12日
 17. 中村美詠子、「ここが気になる みかんの底力」、NHKたつぷり静岡、2016年4月14日
 18. 中村美詠子、「65歳以上高齢者、残っている歯が19本以下で「やせ形」リスク増、FNNニュース、2016年4月15日
 19. 中村美詠子、「長寿医療研調査 高齢男性に顕著 歯19本以下 要介護リスク」、中日新聞朝刊愛知県版、2016年4月15日
 20. 中村美詠子、「歯19本以下の高齢者に体重減リスク」、静岡新聞朝刊、2016年5月9日
 21. 中村美詠子、「歯が19本以下で痩せのリスク1.5倍」、NHKニュース(7時、8時)、2016年5月24日
 22. 中村美詠子、「歯が19本以下で痩せのリスクが1.5倍。残存歯数が高齢者の体重減少、痩せに関連」、デンタリズム、Summer 2016, No.24, p14
 23. 岡田栄作、「室蘭・本輪西版「キザニア」で地域活性化を」、室蘭民報、2016年4月25日
 24. 岡田栄作、「室蘭・蘭北地区で12日から子ども向け職業体験」、室蘭民報、2016年12月28日
 25. 尾関佳代子、「薬剤師の属性と道徳的感受性」杏林堂薬局 尾関佳代子さんー看護師を参考に薬剤師向け測定モデル作成、薬局新聞、2016年4月13日
 26. 尾関佳代子、「ピロリ菌除菌 花粉症は失敗リスク増」ー薬剤師の視点生かす、静岡新聞、2016年7月13日
 27. 尾関佳代子、「調剤業務における薬剤師視点で新発見」ー花粉症罹患者とピロリ菌除菌成功率の関連を立証、薬局新聞、2016年8月10日
 28. 尾関佳代子、「医人伝 杏林堂薬局 薬剤師 尾関佳代子さんー業務の気付きから論文」、中日新聞、2016年10月25日

13 その他の業績